

受講番号 19091 学校名 加茂中学校 氏名 下元 伸博

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 1年生 生徒数 13名
 科目名 1年生 単位数(授業時数) 3時間 使用教科書名 NEW CROWN ENGLISH SERIES 1(三省堂)

クラスの様子・特徴

全体的にまじめで、学習意欲が高く、前向きに取り組める。自己肯定感が乏しく、学習に対しての不安が大きい。説明などを集中して聞くことができず、指示に対してこちらの意図と異なる反応をする場面も見られた。

問題の確定

作業指示は簡潔に、分かりやすく行う。高度なことは求めず、スモールステップで「分かる」意識を持たせることが大切である。

予備調査

A 授業の観察	B 生徒による授業評価	C 学カデータ
全体への指示や説明が個々に行きわたらず、何度も説明しなおす場面があった。板書をノートに書き取ることに他の生徒より時間がかかり、説明に入ってもノートを取ることに熱中している生徒がいる。説明を聞かせる時間と練習時間を十分に確保する必要がある。	4月のアンケートでは、「付けたい力」は発音や文字を正確に素早く書くことに集中した。フォニックスによるアルファベット学習が中心であったためだと推測される。「受けたい授業」は明るく、活気があり、楽しい授業という意見が主であった。	CRT検査結果からは言葉を媒介にした抽象的な学習に向いていると出ているが、直感的で、早とちりする生徒が多い。定期テストの結果は、問題の指示が読み取れなかったり、題意が読み取れないといったミスおよび単語のスペルミスが多かった。

リサーチ・クエスト

生徒が自信を持って授業に参加し、英語が「分かる」、「できる」、「楽しい」という実感を持つことができ、しかも授業進度を遅らせないようにするためには、どのような指導が効果的か。

仮説・実践・検証

仮説1	実践1	検証1
単元ごとに新情報をまとめたワークシートを作成・配布すれば、生徒が説明を聞く時間を確保でき、また、復習する手段も保障することができるので、生徒に安心感を与え、「分かる」という実感を持たすことができるだろう。また、板書をノートに書き写す時間も節約できるため、授業進度も速くなるだろう。	教科書のページ毎に新出単語、本文要約用のスペース、本文和訳、文法説明を示したワークシートを作成し、配布した。それを元に授業をすすめて、説明の際には大事な部分を直接ワークシートに書き込ませたり、マーカーを引かせるようにし、説明をただ聞くだけでなく、何らかの行動を起こさせるようにした。	生徒に今日の授業で何を学ぶのかを大まかに理解させるのに役立つ。定期テストなどの復習にも活用でき、役立つとする生徒の意見もあった。補助説明をさつとワークシートに書き込む生徒も出てきたし、ノートに貼り付けてまとめてある生徒もいる。また、当初のもくろみどおり、板書を写す時間が短縮され、テンポよく授業が進んだ上に、練習時間も確保できた。フォニックス学習のために使った時間を二学期で取り戻すことができた。
評価方法の改善を行い、小テストなどで、どの部分を学習したらよいかという「頑張るポイント」を生徒に知らせていけば、生徒に「できた」という達成感を持たせることができ、苦手意識が克服できるだろう。	小テストの範囲をワークブックから指定し、どこを学習すればよいかを具体的に生徒に知らせるようにした。少しの努力が点数につながることを理解させ、「自分でもやればできる」という実感を持たせるようにした。また、小テストまでの取り組みも評価できるようにし、「やれば得する」という実感を与えられるようにした。	小テストの点数による短期間で顕著な成果は、問題の難易度が徐々に上がるため見られない。しかし、単語テストでは比較的合格点が取れる生徒が増えてきている。また、英作テストでは範囲を伝える際に「ここが出そうだ」という予想を立てる生徒が現れ、学習の要点を捉える生徒が増えてきている。
ペア活動の充実を図れば、一人での孤独な学習ではなくなり、協力し合いながら授業に参加することができるので、生徒に「楽しい」という実感を持たせることができるだろう。また、友達の力を客観的に理解することができるので、安心して授業に取り組めるようになるだろう。	ペアで学習する利点(作業指示が明確になる。スピードを競うため、「聞く」、「話す」活動が自然に活発になる。分からないところは教え合うことができる。)をなるべく機会を捕まえて示すようにした。また、ペアの固定化による意識の低下を防ぐため、ペアを替える活動を盛り込んだ。	ペア同士向かい合って活動するなど、意欲的に取り組んでいる。当初は教え合う雰囲気はなかったが、利点を話すにつれ、そのような場面が見られるようになった。当初はクラスの席替えに合わせてペアを替えていたが、ペアが固定化することによる停滞ムードが感じられるようになったため、ペア替えの活動を盛り込むことにした。生徒には大好評であり、その後の評価活動にも役立った。

研究の成果

ワークシートの活用により、説明の時間が短縮され、一学期の遅れが二学期で解消できたり、練習問題に取り組む時間もある程度確保できるようになった。生徒の感想からも生徒の不安解消の一助になっていることがうかがえる。小テストの取り組みは宿題への取り組み方などから、多少の意識変革がうかがえるが、学習内容が難しくなるため、「できる」という実感を与えることは難しくなった。ただ、答え合わせのときに「分かった」というつぶやきが聞こえるようになったのは成果である。ペア活動についてはペア替えの活動が功を奏し、マンネリ化が解消できた。

今後の授業改善の課題

これまでも「生徒の英語力を上げるためにはどうしたらいいのか」という自問自答は続いてきたが、十分な対策をとってこなかった事実がある。今回の研修を通じて、それらをいかに整理して考えることができた。今後は板書の工夫やフラッシュカード、ピクチャーカードなどの利用など、教授法の改善に取り組みたいし、「生徒が自分で書き、話す」という自己表現を効果的に伸ばす方法を研究していきたい。

リサーチについての問合せ先:

職場電話

0889-20-1517